

エゾシカ・陸上生態系 WG 担当長期モニタリング項目の評価指標及び評価基準 ver. 201407

モニタリング項目	現行		見直し案	
	評価指標	評価基準	評価指標	評価基準
No.7 エゾシカの影響からの植生の回復状況調査(林野庁 1ha 囲い区内外)	在来種の種数と種組成、 採食圧への反応が早い植物群落(ササ群落 etc.)の属性	在来種の種数と種組成：1980 年代の状態へ近づくこと。 ササ群落 etc.の属性：1980 年代の状態へ近づくこと。	稚樹・萌芽の発生密度、 下枝被度 下層植生	稚樹・萌芽の密度、下枝被度：1980 年代の状態に回復すること。 下層植生：1980 年代の群落機能・構造に回復すること。
No.8 エゾシカの影響からの植生の回復状況調査(環境省知床岬囲い区内外)	(高さ・被度など)		ガンコウラン群落：ガンコウラン、シャジクソウ、ヒメエゾネギ等の植被率、個体数、繁殖個体数 高茎草本群落：群落構造・機能 (高さ・被度等)	ガンコウラン群落：指標種等の植被率。個体数、繁殖個体数が 1980 年代の状態に回復すること。 高茎草本群落：群落構造・機能が 1980 年代の状態に回復すること。
No.9 密度操作実験対象地域のエゾシカ採食圧調査	在来種の種数と種組成、 採食圧への反応が早い植物群落(ササ群落 etc.)の属性 (高さ・被度など)	在来種の種数と種組成：1980 年代の状態へ近づくこと。 ササ群落 etc.の属性：1980 年代の状態へ近づくこと。	採食圧 植生保護柵内外の植生現存量 高茎草本群落の群落構造・機能 (高さ・被度等)	採食圧：調査開始時より採食圧が下回っていること。 植生現存量：1980 年代の状態に回復すること。 群落構造・機能：1980 年代の状態に回復すること。
No.10 エゾシカによる影響の把握に資する広域植生調査	在来種の種と種組成、 採食圧への反応が早い植物群落(ササ群落 etc.)の属性、 外来種の分布及び個体数、 登山道沿いの踏圧状況、 ハイマツ帯の分布	在来種の種数と種組成：1980 年代の状態へ近づくこと。 ササ群落 etc.の属性：1980 年代の状態へ近づくこと。 外来種：根絶、登録時より縮小。 登山道沿いの踏圧：踏圧が拡大していないこと。 ハイマツ：分布や更新状況に著しい変化がないこと。	森林植生：稚樹・萌芽の発生密度、下枝被度、下層植生 高山・亜高山及び海岸植生：出現種数、群落構造・機能、外来種の分布状況 登山道沿いの踏圧状況	森林植生：1980 年代の状態に回復すること。 高山・亜高山及び海岸植生：1980 年代の状態に回復すること。 登山道沿いの踏圧：踏圧等により登山道の幅が広がっていないこと。

モニタリング項目	現行		見直し案	
	評価指標	評価基準	評価指標	評価基準
No.11 シレットコスミレの定期的な生育・分布状況調査	分布域と密度	遺産登録時の生育・分布状況の維持	分布域と密度	生育・分布状況の維持。 エゾシカによる採食がみられないこと。
No.12 エゾシカ越冬群の広域航空カウント	越冬群の個体数	主要越冬地の密度を 1980 年代初頭並に。	越冬群の個体数	主要越冬地の生息密度が5頭/km2(1980年代初頭水準)以下となること。
No.13 陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況(外来種侵入状況調査含む)	動物相、生息密度、分布	登録時の生息状況・多様性を下回らぬこと。外来種は、根絶、生息情報の最少化。	昆虫相、生息密度、分布、外来種の分布状況	多様性の低下が生じないこと。 (基準とする時期は過去の資料から検討して今後確定する) セイヨウオオマルハナバチ以外の特定外来生物が発見されないこと。
No.14 陸生鳥類生息状況調査	鳥類相、生息密度、分布	登録時の生息状況・多様性を下回らぬこと。	鳥類相、生息密度、分布、外来種の分布状況	多様性の低下が生じないこと。 (基準とする時期は過去の資料から検討して今後確定する)
No.15 陸生哺乳類の生息状況調査(外来種侵入状況調査含む)	動物相、生息密度、分布	登録時の生息状況・多様性を下回らぬこと。外来種は、根絶、生息情報の最少化。	哺乳類相、生息密度、分布、外来種の分布状況	多様性の低下が生じないこと。 (基準とする時期は過去の資料から検討して今後確定する) アライグマが発見されないこと。
No.16 広域植生図の作成	植物群落の状況、高層湿原、森林限界及びハイマツ帯の変動	人為的变化を起こさぬこと。 高層湿原、森林限界及びハイマツ帯の分布が変化していないこと。	植物群落の状況、高層湿原、森林限界及びハイマツ帯の変動	人為的变化を起こさぬこと。 高層湿原、森林限界及びハイマツ帯の分布が変化していないこと。
No.⑪エゾシカの主要越冬地における地上カウント調査(哺乳類の生息状況調査を含む)	単位距離あたりの発見頭数又は指標	1980 年代初頭のレベルかどうか。	単位距離あたりの発見頭数又は指標	生息密度指数が 1980 年代初頭のレベル以下となること。
No.⑫エゾシカの間引き個体、自然死個体などの体重、妊娠率などの個体群の質の把握に関する調査	間引き個体、自然死個体などの生物学的特性	—	間引き個体、自然死個体などの生物学的特性	—